

猛暑の候、会員の皆様にはいよいよご隆盛のこととお慶び申し上げます。
平素は工業会の事業に格別のお引き立てをいただき、厚く御礼申し上げます。

この度のサーチライトはいよいよ大詰めとなりました外国人技能実習生職種認定の近況について報告させていただきます。

これに先立ちまして第8回定時社員総会・臨時理事会にて再任されました本会会長であります長田会長より再任のご挨拶をさせていただきます。

会長再任のご挨拶

この度、一般社団法人日本RPF工業会 第8回定時社員総会・臨時理事会において、会長に再任されました、長田和志でございます。

平素より、当工業会の活動にご理解とご支援をいただき、厚く御礼申し上げます。

また、本年度の総会は、新型コロナウイルスの影響で書面決議となりましたが、皆様のご協力により全議案ご承認いただき、無事新期を迎えられましたこと、心から感謝申し上げます。事業の主軸としておりました外国人技能実習制度の認定も大詰めを迎え、試行試験の認定を受けるところまで進めてまいりました。これもWGはじめ皆様方の惜しみないご協力の賜物と重ねて感謝申し上げます。

さて、私たちの事業は、主に廃プラスチックや紙くず、木くずなどの廃棄物を原料とした、石炭に代わる発電用燃料を製造している訳ですが、その主原料である、廃プラスチックや石炭に関する社会情勢がすさまじい勢いで変化しています。脱プラスチックやプラスチックによる、地球環境汚染問題の解決やバーゼル条約の規制強化に見られるように、中国など外国頼みのリサイクルからの脱却と国内循環体制の構築が急がれております。

また、石炭については、気候変動の元凶である温室効果ガスの排出を抑制するため、世界的に進む脱石炭、すなわち石炭火力発電から再生可能エネルギー発電へのシフトも急速に進んでいます。

私たちの事業で最も重要な三つのファクター、廃プラスチック問題と脱石炭問題、エネルギー問題を解決することにより、世界規模で発生している温暖化による災害、

そして海洋汚染や生態系の破壊など、地球規模の環境問題の解決に寄与できると考えています。

新型コロナウイルスの影響もあり、これからの10年、日本国内で発生する廃棄物の種類や量、再生・循環方法などは、社会環境情勢に大きく左右され変化して行くと思われまふ。私たちは、RPFの製造業者でありながら、入口では廃棄物処理業者であります。これからは、世界が求める変化を見据え、RPFをはじめ環境をリードする様々なリサイクルに取り組んでいかなければなりません。

その様な情勢の中、やはり一番大切にすべきは、地球環境を守ること。温暖化や海洋汚染、あらゆる資源の枯渇を食い止めることを理念とした事業を行う必要があると思ひます。

このような転機の時こそ、私たちは原点に立ち返り、未来に向けた持続可能な地球環境を取り戻すことを使命と捉え事業活動の方向性を探っていく必要があると思ひます。

今後、当工業会といたしましては、RPFの品質に関しISOでの国際標準化・規格化を推進し、そして海外での廃棄物問題の解決の一助となれるよう、外国人技能実習制度を活用した高度なリサイクル技術の開発途上地域への移転を促進します。

また、用途開発委員会を強化し、国内の再生可能エネルギーの拡大に努めて参りたいと思ひます。

最後になりますが、新型コロナウイルスによる逆境のなか、新しい発想で業界の発展、そして会の運営を行ってまいります。会員の皆様にはご協力を賜りますよう、よろしくお願ひ申し上げます。

コロナ禍の終息そして会員の皆様のご繁栄を祈念いたしましてご挨拶といたします。

令和二年八月
一般社団法人 日本RPF工業会
会長 長田 和志

外国人技能実習職種認定について近況報告

以前お知らせいたしましたスケジュールでは、6月末には外国人技能実習生の職種認定を頂いている予定でしたがコロナウイルス感染の影響により、試行試験の予定が伸びてしまい未だ実施に至っておりません。このような状況下でもWGメンバーや事務局は会合を重ね粛々と関係機関等の調整を行って参りました結果、いよいよ本番の試行試験を8月27、28日の2日間で行えるよう諸官庁や外国人技能実習機構との調整を行い実施できる運びとなりました。(但し、コロナ感染の状況により延期の可能性あり 8/3)

本番に備えまして7月15、16日の2日間で予行試行試験を株式会社日本ウエスト様のご協力により施設をお借りして、本番同様の試験を行いました。試験会場の設営、学科試験、実技試験を行い細部に渡ってチェックがなされ、その様子取材しましたので報告いたします。

予行試験に備えて事前に受付、学科試験会場、実技試験会場、その他の施設には表示され準備がなされていました。



予行試験開始

外国人技能実習生WGの三輪委員長をはじめメンバーの他、長田会長、石谷事務局長が参加され、遠藤顧問の進行で予行試験が始まりました。

まずは会場への案内誘導、受付での本人確認、ゼッケン配布、試験会場の説明を行い、いよいよ初級学科試験を実施しました。岡試験監督者から学科試験の説明を行い読み上げ形式で試験を進めました。解答用紙を回収し、学科試験は終了しました。



皆さま、本番さながらやや緊張はして居りましたが確認しながら進行しました。

尚、受検者は日本ウエスト様から経験の違う3名の社員様にお願いしました。

続いて、初級、専門級、上級とそれぞれ星野試験監督者、伊地知試験監督者、吉田首席試験監督者と交代して行いました。

初級レベルでは、RPFと原料の基本知識と安全作業のための保護、専門級レベルでは作業を行う上での基本的な知識や安全作業を行うための知識、上級レベルでは作業計画やトラブル対応とレベルに応じた内容となっていました。

学科試験を終えてから三輪委員長、石谷事務局長から総評が本番までに修正が必要なことについて指摘があり対応がなされました。

続いて試験会場を移動し技能試験を行いました。各レベルに応じた試験を行いました。試験内容の詳細については報告できませんが実際のRPF製造プロセスに必要な知識に基づいた技能を身に付けているか、確認する内容となっていました。

驚いたのは機械設備を実際に動かすことはできませんが、賛助会員の御池鉄工所様のご協力によりデモ機を製作し、タッチパネルを用いた起動、停止等、色々な工夫をして試験を作成されたのだと大変感心致しました。WGメンバーの皆様のご苦勞は計り知れぬものであることを垣間見ました。



無事、一日目の予行試験は終了しました。

翌日は立ち会うことが出来ませんでした。前日に把握した課題について対応を協議し変更を重ね本番の試行試験に万全を期すことになりました。

外国人技能実習生WG委員の皆様をはじめ、日本ウエスト様、事務局の皆様にはコロナ禍においていろいろな制約や変更にも適切な対処を頂き感謝申し上げます。

最後に最近の新聞報道では脱石炭の世界的な流れの中で国内においても石炭火力発電所の使用方法について効率の悪いものから順次停止する案が検討されたり、環境省プラスチック資源循環小委員会が開催され、RPF業界と関わりのある環境に変化が出てきています。しっかりと国内の政策等にも業界の意見が反映できるように活動をしていきたいと考えております。

今年度は各委員会活動もコロナウイルス感染防止のため計画していた活動が延期にならざる負えない状況となっております。そのような中でも工夫をして会員の皆様に有用な情報提供や機会を創出できるよう努力してまいりたいと考えております。又、皆様からのご意見やアイデアがありましたら事務局までご連絡してください。宜しくお願ひ申し上げます。

まだまだ暑さの厳しい日が続きますが皆さま置かれましては熱中症やコロナ感染に掛からぬようにお祈りいたします。